

## 動物用医薬品副作用症例報告 (平成17年12月分)

薬事法第77条4の2に基づく動物用医薬品副作用症例報告を次のとおり掲載する。

医薬品の名称 (製造(輸入)業者名)	副作用発現動物					副作用等発現の概要及び転帰							
	種類	性	年齢等	投与前の健康状態・疾患等	関連医薬品の投与歴等	既往歴	投与量・投与法	投与年月日	併用薬	副作用発現年月日(投与後時間)	副作用等の種類	講じた処置	転帰
犬・猫用 バイトリル2.5% 注射液 バイエルメディカル(株) 製造番号： KP03G7G	犬	雄	11歳	不健康 前立腺 膿瘍	不明	不明	5mg/ kg 皮下注 射(適 用外使 用)	平成17年 12月5日	ズプリ ン	平成17年 12月5日	虚脱, 痙攣, 嘔吐 12月5日 薬剤投与3時間 後より虚脱とな ったため治療を 開始, WBC: 21,700, BUN: 13.4, GPT: 36 12月6日 BUN: 30代に 上昇, GPT: >1,000 12月7日 チックの発現を 確認 12月9日 痙攣の発現を確 認 12月11日 1~2日間隔で 痙攣を発現 12月13日 WBC: 51,900, GPT: 80, BUN: 37.8, CRE: 1.5	治療 12月5日 エピネフ リン (0.02μg/ kg). リンゲル の輸液, プリンペ ラン, 注射用エ フオーワ イ(メシ ル酸ガベ キサート) の投与. 12月7日 ビクタス の投与. 12月8日 ビクタス の投与中 止. 12月9日 セファゾ リンを皮 下投与. 12月10日 セファゾ リンの静 脈内投 与.	治療中
<p>《企業の意見及び対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当獣医師：治療経過からも薬剤に特異的に反応する体質であると思われる。しかし、薬剤投与後に症状が発現しているため、どちらかの薬剤あるいは両方の薬剤かは判断できないが、薬剤投与との関連は否定できないと考えている。</li> <li>・企業：治療に数多くの薬剤が投与されているために判断は非常に困難であるが、ズプリンの有効成分であるテポキサリンは非ステロイド系消炎鎮痛剤(NSAID)に分類され、この系統の薬剤とNQ系薬剤を併用するとまれに痙攣を発現させることが人体薬で知られており、この内容はバイトリルのすべての製剤の添付文書に記載されている。バイトリルとテポキサリンとの併用についての詳細は不明であるものの、この併用投与を施した症例において最初に発現が観察された虚脱については、バイトリル及びテポキサリンそれぞれの単独の副作用であると結論付けることはできず、同時に生体側に何らかの要因が存在した可能性も完全には否定できない。</li> <li>・対応：引き続き同様の症例の発生について調査を続けていくとともに使用者に対し、当該薬剤の使用上の注意の記載事項についてさらなる周知徹底を図っていく所存である。</li> </ul>													